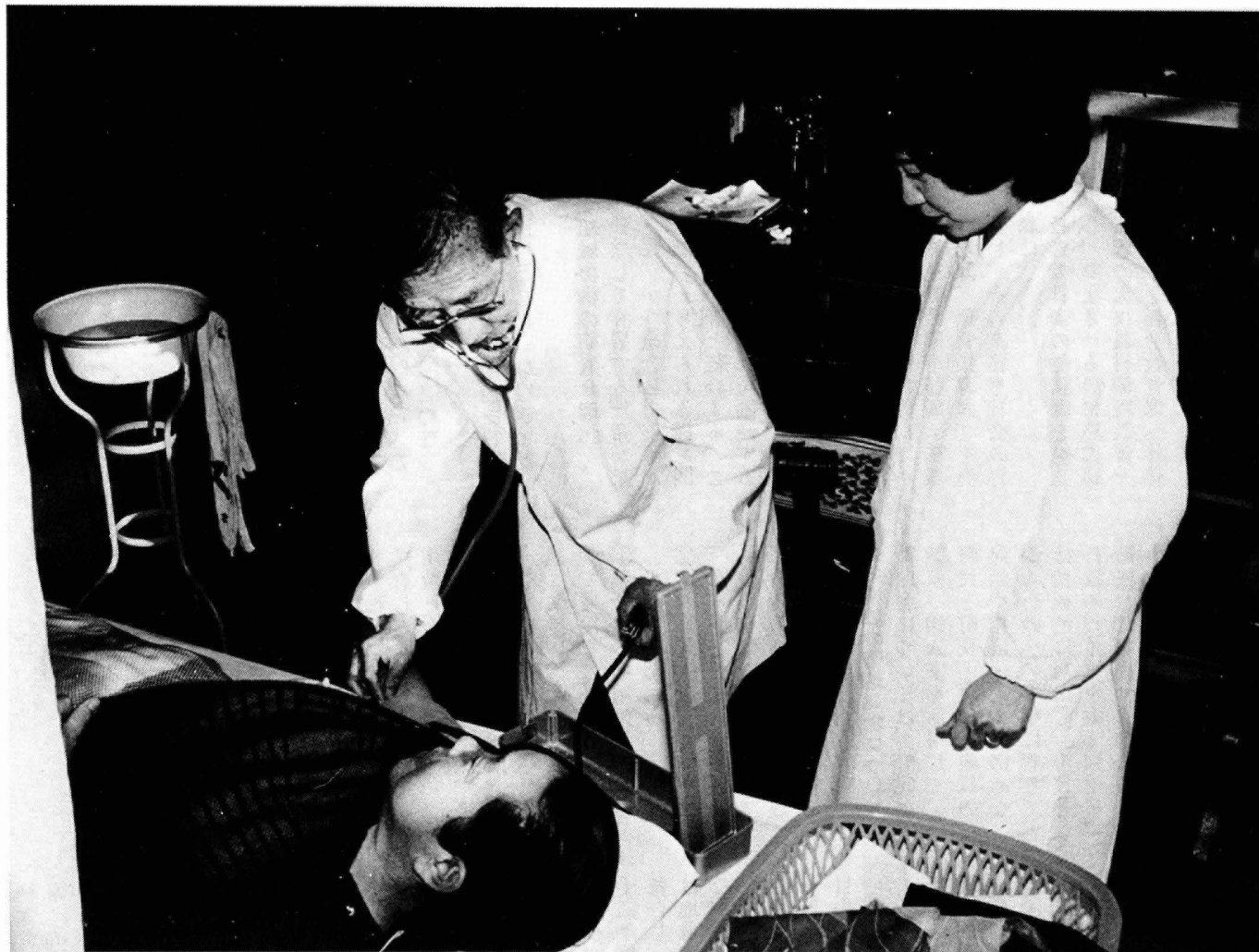


診療日は月・水・金曜日の週三回／金曜日の担当医師は児玉先生



(本報紙中にある写真を欲しい方に
おあげします)

杉沢へき地出張診療所は、富津内の診療所が廃止された今では、町内唯一の町立診療所となりました。昭和三十八年に開設され、以来、杉沢地区の医療施設として地域に貢献してきました。木造モルタルの平屋で、床面積は八二・五平方メートル。板敷きの診察室、畳の待合室など、村の個人医院といった雰囲気があります。

開設当時は、毎週月曜日と土曜日が診療日でしたが、現在は月・水・金曜日の週三回。診療時間は午後一時から午後四時まで。月曜日は湖東総合病院の先生、水曜日は笹尾医院の笹尾知先生、金曜日は児玉医院（八郎潟町）の児玉順先生が、診療所に出向き、医療に当たっています。

昨年一年間の延べ利用者数は約五百人。道路が整備され、交通が発達するに伴って利用者は減少しています。しかし、高血圧などの慢性の患者やお年寄りにとっては、掛け替えない地域の医療施設です。

杉沢へき地出張診療所

町の施設



発行／五城目町

編集／文書広報課 ☎ 0188 (52) 2100(代)

印刷／湖東印刷所 ☎ 0188 (52) 2430

行政改革の大綱まとまる

行革懇談会の意見を集約

町では、行政改革を推進するため、昨年の六月に五城目町行政改革推進本部（本部長・加賀谷町長）を設置。さらに、昨年七月には、各種機関・団体の代表、学識経験者（八人）からなる五城目町行政改革懇談会（会長・千田金之助氏）を設置し、行財政全般にわたる改革を検討してもらいました。

このたび、その大綱がまとまり、十一月十日に開かれた議会全員協議会に報告されました。今後、町では「五城目町行政改革大綱」として、これを推進することになりました。

五城目町行政改革大綱

基本事項

本町の行政改革は、能率化、合理化および長期総合発展計画を円滑に推し進めることを追求しつつも、町民福祉やサービスの低下につながらないこと、町民にとまどいを与えないことを前提として、町民のコンセンサスを背景に、緩やかな息の長い改革改善を志向し策定したものである。

その経緯は、国、県の方針を踏まえつつ、昭和六十年七月九日設置した五城目町行政改革懇談会の意見を尊重し、これを集約したものである。したがって、総論は同懇談会の承認を得たものであり、各

当面の措置事項

論はそれを基として、行政担当各者間の協議を経て、実施線に乗せるべく具体化したものである。

(1) 事務事業の見直し

・町単独の補助金で、目的をほぼ達成したものは廃止、各種団体の運営費補助金については、運営内容・活動状況を見ながら継続、廃止、縮小する。

・町単独の補助金で、新規交付のものについては、最高五年の終期を設定する。

・使用料（手数料）の見直しをして自主財源の確保を図る。

(2) 組織機構の簡素合理化

独立して存置する使命が果たされ、かつ統合して支障が生じないと考えられる課を関連性の深い課と統合する。この結果、一局五課を削減する案となった。

・農政課と農村整備課を統合し、農政課に。

・都市計画課と土地調整課を統合し、都市整備課に。

・雀館運動公園事務局（施設管理課、運営指導課）を廃止し、その業務を社会教育課に。

・教育委員会の総務課を廃止し、廃止される農村整備課所管の大川農村環境改善センターを社会教育課へ移管する。

・臨時的就業職員数の適正化について

事務改善および事務事業の見直しと並行して適当な雇用数と配置を図る。

・臨時の再雇用者（嘱託、アルバイト）については、六十歳定年制度を確立したことに準拠し、六十三歳をもって雇用を停止する。

①嘱託員の雇用は極力抑制し漸減に努める。

②アルバイトは、本来正規の職員として採用される手段とはならないものである。その認識と理解をこの改革大綱の制定で確認する。

(4) 公共施設の管理運営について

・新庁舎については、町民談話室、相談室を活用して、町民と町長・町民と職員の対話や相談・交流を深めながら行政への要望に対しては積極的に対処し、町民と行政のパイプを太く強くし、徹底した町民サービスに努める。

・雀館運動公園は、スポーツレクリエーションの拠点施設として、地域ボランティアなどの協力を得ながら各

種大会の開催、合宿の誘致等に積極的に取り組む。

・類似公共施設（恋地山荘・赤倉山荘・リバーサイド磯ノ目など）の管理運営にあたっては、各施設の連携を保ちつつ、それぞれの特性を生かしながら利用者の増大とフル活用を図る。さらに、食堂、清掃部門など民間委託になじむと考えられるものについては、積極的にすすめる。

・公共施設の名称を利用目的の趣旨に沿って親しまれるように改め、さらに利用効果があがるようにする。

(5) 学校統合について

・中学校については、昭和六十二年富津内中学校を統合し、杉沢中学校の場合には地域のコンセンサスを得ながら六十三年度以降に統合の促進を図る。

その他

(1) 事務処理等の簡素合理化を図るためのOA化の推進

・大型コンピュータの導入計画を昭和六十二年、六十三年度に策定し、導入はそれ以降の予定にする。

・ワープロについては、昭和五十九年度、六十年、六十一年度と各一台を導入し、文書事務の能率化を図ってきているが、今後さらに計画的に導入し、将来は各部

室に一台を配置する方向である。

・通信情報処理システムについては、町民あるいは企業等関係機関のニーズを把握しながら導入の方向で検討する。

(2) 小学校の統合について

・中学校の統合後、検討する。

(3) 各分館への専任社会教育主事の常駐について

・各地区の公共施設の整備状況に依り、地区公民館、地区コミュニティの強化を図るため社会教育主事を配置する計画である。しかし、国、県の行政改革方針によつて建物に対する助成、起債は厳しく、その整備は遅れているが、社会教育主事の養成は積極的に進めていくことにする。

(4) 五城目町消防庁舎の位置および分団数、団員数の見直しについて

・消防団員の就業態様の変化や団員の高齢化傾向が見られるようになってきており、最近の常備消防の設備、機器の充実等からみて、消防分団数、団員数の見直しを地区住民、消防関係者のコンセンサスを得て、消防力の低下につながらないように段階的に見直しをしていく。また、町の状況からみて消防庁舎の位置が適地でないと考えられるので、位置の見直しも含めて検討する。

長寿社会の道しるべ示す

長寿社会 構築対策 懇談会が町長に答申

五城目町長寿社会構築対策懇談会（座長・畑沢実氏）から、このほど町長に対し五城目町長寿社会構築対策大綱の答申がだされました。これは、町長の諮問に答えたもので、本町における長寿社会の基本的なあり方について「道しるべ」が提言されました。答申の概要は次のとおりです。

シルバー産業の展開

(1) 就労の補助的役割

週休二日制などの導入により、壮年就労者の労働時間を短縮し、その補助的役割を高年者に果たさせる考え方は、勤労世代の時間的な心身のゆとりと学習、余暇に関し多様な選択の機会を与え、個人が生涯にわたって、その能力や創造性を発揮できる条件を満たすことにもなり、長寿社会に生きる人づくりにつながるものと考えられる。

高齢者には、その知識、経験の発揮をもとに、生きがいや助長させるために、これら壮年就労者の補助的役割を果たす場を考える必要がある。

(2) 新規職場の開拓
企業誘致というような技術集積を伴うものではなく、地域社会にある身近かで取り組

みやすい働き場を確保し、レクリエーションと実益を兼ねた第一次産業、もしくは、五次産業部門の開拓で、我々の技術集積を活用し、就労と健康と社会参加を促進させる。このための試案として公営農場、公営牧場、公営養魚場の設置などが考えられる。

(3) 趣味活動の産業化

今すで見られる鈴虫土鈴など趣味と実益を兼ねた生産活動の実例のごとく、長寿者の知識、経験を生かした民芸品、手づくり品などの産業化を図り、五城目町を売り出す活動の一翼を担うべきである。

社会参加の促進

長寿者も重要な社会の構成員である自覚を一層深めさせ、自ら参加する心、参加させる心を醸成し、相互扶助の尊さを自覚し、若年層への見本を

示しつつ世代間交流の促進を図る必要がある。

そのために学校教育、社会教育、生涯教育、公民館活動、町内会活動などを通じて積極的な啓蒙を図る。そして、必要な学習プログラムの作成、リーダーの養成などにも努力する。

学習活動は学習の場の提供が必要となる。集める場所ではなく、集まる場所という考えで設定する。

自助努力の育成

長寿社会では自らの人生の考え方を転換する必要がある。すなわち少なくとも二十年近い高齢期間のあることを考えて、自らの人生の努力を怠ってはならない。

満ちたりた人生の最低条件は、健康が確保され、生活をささえる経済基盤があり、社会との連帯感を持てることである。健康確保のためには、各種検診への積極的参加、スポーツレクリエーションなどの行事への参加など、各年代にわたっての健康管理と健康意識の高揚が必要である。

経済基盤の確立のためには年金、その他の公的な施策への参加と同時に、保険など自らの人生設計に積極的に取り組むことが必要である。

社会との連帯のためには、サークル活動、趣味活動、学習活動、スポーツなどあらゆる仲間づくりに積極的に参加し、長寿社会を充実した人生とする心構えが必要である。

その他、あらゆる面で高齢者となった場合の自らの生き方は、常に確立する努力を怠ってはならない。

福祉対象者への対応

(1) 福祉対象者は、できる限り福祉対象者に近い人々と近い環境の中で、私的公的サービスの供給が安心して受けられるよう配慮されなければならない。

これには、集落内福祉の新しいシステムを構築する方法が最も肝要である。

つまり、一人暮らし老人、寝たきり老人、痴呆性老人などの介護や見まわりサービス、話相手となる対策は、健康な仲間を通じ、あるいは町から委託を受けたその集落のヘルパーによってなされるという新しい施策の創出である。

このシステムの定着は、五城目町という地域社会全体の機能が特別養護老人ホームの役割を形成するという新しい愛情のにじみ出るシステムということになる。

トステイ（短期保護）、デーサービス（通所サービス）、託老所、給食、入浴サービスの場として活用できるよう改築拡充整備することが望ましい。高齢化社会を迎えており、一層その必要性の速度が早まっていることに着眼しなければならない。

その他考えられること

(1) 長寿社会は幼年、少年、青年、壮年、実年、高年という人生八十年間の全てをもつて形成されるものであり、人生六十年からの二十年を余生としてとらえず、人生の貴重な総仕上げの二十年であるという意識改革をまず醸成しなければならない。

(2) 特に、若年時代から自らのライフスタイルの構築を考え、自らの生き方、指針を持たなければならないと同時に、生涯教育の学習の場をより充実させなければならない。

(3) 地域社会は、壮年期の就労と高年期の就労を区分し、生きがいのある生産活動やボランティア活動の意欲を助長する受け皿を準備しなければならない。

(4) 勤労世代の就労に対し、補助就労の機会や業種はないか。
(5) 農場を確保するなど町の特産物、花、果実の栽培など、新規に事業を開拓できないか。
(6) 町の伝統文化を掘り起こしできないか。
(7) 生涯教育活動のプログラムを編成できないか。

(8) 集める場所だけでなく、集まる場所を地区単位に年次計画で建設できないか。

(9) 自助努力で、自らが要求されているものは何か、の心身の診断はできないか。

(10) 集落単位の高年者の状況調査カードを早期に作成できないか。

(11) 三世代以上同居の推奨の対策を具体化するべきである。

(12) 将来、長寿センターを建設できないか。

(13) 技術革新の新しい潮流を体得させるべく、ワープロ、パソコンなどの取り扱い講習会を高齢者の自立自助のため開設するべきである。

結 び

人生八十年のいわゆる長寿社会は、一方では高度な技術時代であり、情報時代である。このような時代は、労働価値が高まると同時に労働の担い手が若年化する時代である。したがって、従来の労働、即ち人生の生き方はあてはまらなくなるだろう。

労働を離れた人生をいかにして充実したものとして送るかは、困難にして未経験な人生観の転換を迫られるものである。

公的にも私的にも、総力をあけてこの問題に取り組む必要がある。

小学校時代からの教育の中と社会人としての自覚の中にこの問題をすえることが解決の基本ではないだろうか。

矢場崎住宅団地

第三期
造成地

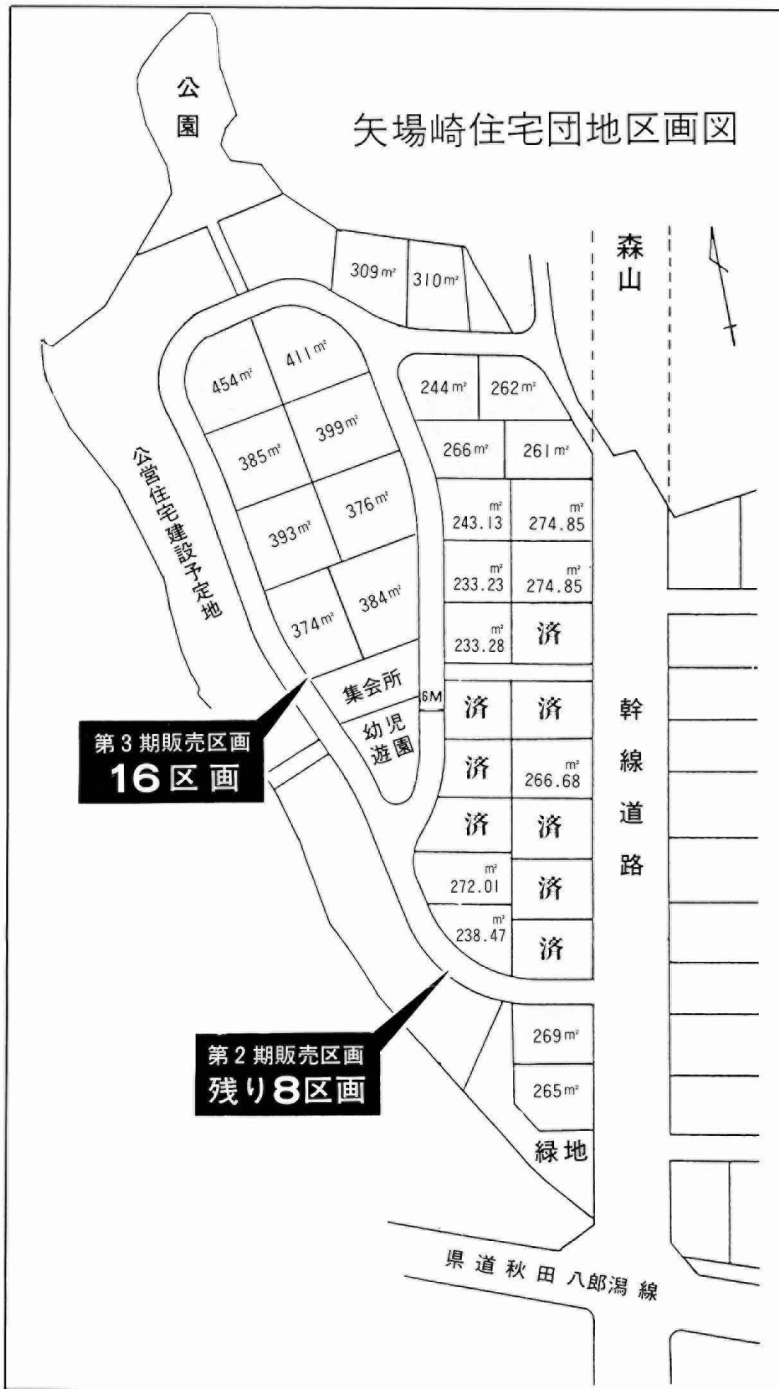
来春分譲を開始 第二期分残り8区画

町と五城目町開発公社が分譲している矢場崎住宅団地の第二期造成地は、十六区画のうち八区画が売却済みで、残り八区画となっております。購入を希望する方はお早目に申し込んでください。分譲価格は三・三平方メートル（一坪）六万三千円で、それぞれの分譲地価格の二〇割を頭金として購入を予約することができます。

町と五城目町開発公社が分譲している矢場崎住宅団地の第二期造成地は、町の良い住宅地として整備を進める計画であり、住宅を建築するには最適な条件をそなえています。矢場崎住宅団地についてお知りになりたいことがあります。

もし、町内の皆さんはもちろんのこと、町外の方も気軽に役場建設課か町開発公社にお問い合せください。購入の際の融資や支払い方法などについても相談に応じています。

また、第三期造成地の工事は、八月から進められていましたが、このほど十六区画、五三六二平方メートルが完成し、来春早々分譲（価格未定）を開始する予定です。現在、町と町開発公社では、第三期造成地についての問い合わせにも応じていますので、お気軽に役場建設課（☎52-2100内線2252）か町開発公社（☎52-2100内線2392）へご連絡ください。



分譲地の概要

所在地／五城目町川崎宮花地内
交通／中央交通バス停まで徒歩1分
商店街まで徒歩10分
湖東総合病院まで徒歩3分
歯科医院まで徒歩2分
五城目保育園まで徒歩10分
五城目小学校まで徒歩20分
五城目第一中学校まで徒歩25分
五城目高等学校まで徒歩3分
地域／都市計画区域内
建ぺい率／50%（第1種住居専用地域）
施設／町営上水道宅地内引込済、消化栓・排水U字溝設置、公園・緑地確保
電気／東北電力
ガス／プロパンガス
道路／幹線18m、区画道6m、私道負担無し



御歳暮には

ふるさとの心のこもった
贈りもの。

（全国地方発送致します）

酒専門店

タカツ

五城目町中央通り
(52) 2262

木造住宅産業と中央線沿道整備の推進部会を設置

「まちづくり」へ向けてスタート

木造住宅産業推進部会と中央線シンボルロード沿道整備推進部会の発足合同部会が、十一月十日、役場四階大会議室で開かれました。この合同部会は、「豊かな人間性と創造性を培う田園都市づくり」の一環として、地域住民の発意と創意によるまちづくりを推進する五城目町まちづくり協議会の発足にさきがけて開かれたもの。

沿道整備推進部会の設置主旨などの説明が行われ、その後、各正副部会長が互選されました。

両部会の構成委員は、次のとおりです。潤いのあるまちづくりの先導的な役割を担う組織として、今後の活躍が期待されます。

▽木造住宅産業推進部会構成委員

小川秀雄(部会長)
京野敏彦(副部会長)
林正和 小林勉
小玉銀助 島山芳雄
越高善夫 堀井良一
渡辺虎夫 山口裕
鷺谷隆 中村勲
長谷川重雄 猿田勲

▽中央線シンボルロード沿道整備推進部会構成委員

小玉都夫 加賀谷正人
伊藤柳 渡辺琢智
目黒世志多花 阿部ミワ
佐々木ユキ、佐藤レイ
石川睦子

雇用保険の正しい利用を

加藤千雄(新町町内会長)
石井清(昭辰町町内会長)
伊藤武次(雀館町町内会長)
安達悦郎(西磯ノ目町町内会長)
松橋作五郎(矢場崎町町内会長)
伊藤準一郎(農協組合長)
桜庭鉄男(中央交通(株)五城目営業所長)

求職受付は木曜日

秋田公共職業安定所では、冬期間の離職者の求職受理と特例一時金の受給手続きを円滑に行うため、市町村別に求職受付曜日を設けます。

五城目町の求職受付曜日は次のとおりです。

▽受付曜日・時間
木曜日 午前八時四十分～五十分
▽期間
昭和六十一年十二月八日～昭和六十二年二月十三日
※年末年始(十二月二十七日～一月四日)は求職受付業務を行いません。

五城目・大川・内川保育園

入園児を募集

五城目、大川、内川の各保育園では、昭和六十二年度の保育園児を募集します。

入園申請書は、役場住民課、各保育園で交付します。交付期間は、十二月八日から十三日までです。

保育園は、家庭の事情など

で児童の保育が困難と認められる場合に、保護者にかわって保育する児童福祉施設です。各保育園の募集定員と対象地域は、次のとおりです。詳しい内容は、役場住民課(☎5212100)にお問い合わせください。

▽五城目保育園

・募集定員 百五十人
・対象地域 五城目、馬川、森山、上山内、下山内、富田、小倉

▽大川保育園

・募集定員 九十人
・対象地域 大川地区

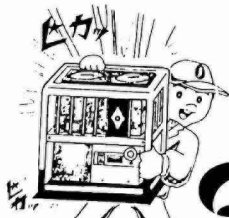
▽内川保育園

・募集定員 四十五人
・対象地域 内川地区(小倉は除く)

スパイクタイヤの 使用自粛に協力を

スパイクタイヤによる舗装道路の損耗や粉じんの発生などが、大きな社会問題になっています。積雪など路面の状態によって、不必要な場合はスパイクタイヤの使用を自粛してください。

どんなストーブでも修理します!!



- 反射ストーブのしん交換
- 分解整備
- 取付・点検

☎ 52-9497

信頼の炎を燃やして
有限会社 **クワパ** 燃料

手続きかんたん、お使いみち自由

しんきんの個人ローン

- ・お使いみち／ご自由
- ・ご融資期間／5年以内
- ・ご融資金額／1万円～500万円(年収の50%以内)
- ・ご融資利率／年8.6%(他に保証料 年1.65%)

まごころかよう

五城目信用金庫

本店 ☎52-2115代・八郎湯支店 ☎75-2544代・若美支店 ☎0185-46-2315代・飯島支店 ☎45-8024代



広報縮刷版第2巻、を制作中 予約による限定出版



町では現在、「広報ごじょうめ」の縮刷版第二巻を制作中で、その予約注文を受け付けています。この縮刷版は予約による限定出版ですので、購入希望の方は、必ず予約してください。

予約注文は、十一月上旬町内に配布しました「縮刷版予約募集」のチラシに印刷したハガキか、直接電話などで申し込んでください。申し込み先は役場文書広報課（☎5212100）。申し込みの締め切りは十二月十日。

この縮刷版は、昭和四十七

年から五十一年までを収録しており、総ページ数は約七百六十ページ。広報紙の縮刷七百二十二ページのほか、町内外の年表や町の統計などが整理され、参考資料として収められています。また、目次や中仕切りをつけるなど、利用しやすいように工夫されています。

大きさは、第一巻と同じB5判（一八cm×二五cm）、表紙は布クロスで、ケースがついています。頒布価格は三千七百円。

予約は12月10日までに

カメラレポート



パネル討論には5人のパネリストが登場

助役パネリストを務める

ふるさと文化シンポジウム

「ふるさと文化シンポジウム」が、11月20日、広域体育館で開かれ、パネリストとして登壇した伊藤助役は、行政の立場から意見を述べました。

このシンポジウムは、行政と住民がそれぞれの立場から地域文化の総合的な振興を図るための方策を考えようと県と町が主催したもので、町内外から一般の方など300人あまりが参加しました。午前中は東京大学の高階教授が、「絵になる地域社会」と題して基調講演を行いました。午後からは秋田大学の野野教授をコーディネータにパネル討論が行われ、5人のパネリストがそれぞれの立場から意見を発表しました。

お知らせ

水道の凍結に注意

水抜きを忘れずに

これから寒さが日ごとに厳しくなります。毎年のことながら、凍結による水道管や水道メーターの破裂などで、漏水が目立って多くなっています。

凍結の原因は、水抜き操作の忘れ、怠り、誤った操作や給水管の埋設の浅いことなどが主な原因です。

凍結を防止するため、特に立上り管および水道メーターをもう一度確認して、寒さに備えるよう点検してください。また、夜間は屋内配管内の水抜きをかならず行ってください。

なお、凍結を防ぐための水の出し流しは、水不足の原因や高い料金を支払うことになりまますので慎んでください。

交通安全教室を開催

更新時の講習を免除

公民館五城目分館と五城目支部交通安全協会上・下町部会では、交通安全教室を開きます。学習内容は、シートベルト着用義務など変更になった事柄などで、専門講師を招



身体障害者福祉週間
(12月9日～15日)

いて行われます。

なお、六十一年十二月八日から六十二年十二月七日までに運転免許証を更新する方は、更新時の講習会が免除されますので、該当する方は免許証を持参してください。

▽日時 十二月八日（月）午後六時半

▽場所 五城目町商工会館二階会議室

▽講師 五城目警察署専門官

▽受講料 無料

訓練生を募集

技能開発センター

秋田天王技能開発センターでは、六十二年年度の訓練生を募集しています。

▽科目と定員

●普通訓練課程（二年訓練）

機械科（二十人）

自動車整備科（二十人）

●能力再開発訓練課程（二年訓練）

自動車整備科（十人）

設備科（二十人）

電気工事科（二十五人）

造形技術科（三十五人）

▽応募資格 昭和六十二年三月中学校および高等学校卒業見込の方。または義務教育修了以上の学力を有する方。

▽募集期間 十二月十日まで

▽選考期日と方法

十二月十六日（火）、簡単な筆記試験（国語、数学）および面接

▽申し込み・問い合わせ先

秋田天王技能開発センター

（☎7313177）

年末の交通安全運動

12月1日～12月10日

重点

- 歩行者および自転車利用者の交通事故防止
- 飲酒運転の徹底追放
- 安全運転の励行
- シートベルトの正しい着用の徹底



会社のマークをデザインする加藤さん

加藤さんが、シンボルマークなどのグラフィックデザインを始めたのは十年ほど前で、自分を生かせるものはないかと考えたことが動機。もともと絵心がある加藤さんは農業のかたわら独学で技術を修得し、企業のマークや校章の公募など、機会あるごとに応募しています。

応募するデザインは、今では絵の具の替わりに水性サイ

紹介します

秋田内陸縦貫鉄道の社章をデザインした加藤さん

十一月一日からスタートした秋田内陸縦貫鉄道(株)の社章は、本町の加藤隆一さん(五十一歳・石崎)がデザインしたものです。

採用になった社章のデザインは、秋田内陸縦貫鉄道の頭文字「A」を基調に、内陸部の象徴である丘陵に路線を組み合わせ、二十一世紀に向けて飛躍する姿を表現しています。また、周囲の線は、沿線八カ町村の融和と団結の輪による内陸縦貫鉄道の発展を、ANJTはスピード感を表わしています。

これまで採用されたデザインは今回を含めて四点、入選一点で、全県を対象にした募集で採用されたのは初めて。募集範囲が全県レベルになると、プロのデザイナーや美術科の教師なども応募するので、採用されるのは非常にむずかしいそうです。「デザインの応募は一位になって採用されなければ意味がない。入選ではダメです」と語る加藤さん。全国を対象にした公募にも挑戦しているそうで、「目標は、全国的な公募で自分のデザインが採用されること」と話していました。



内陸縦貫鉄道の社章

お知らせ

電話で無料相談

県司法書士会

秋田県司法書士会では、不動産登記法公布百周年を記念し、司法書士電話法律相談室を開設しています。相談は無料です。

▽期間 昭和六十二年三月まで

▽日時 毎週土曜日 午後一時～四時

▽相談内容

①不動産の相続、売買、贈与、交換、担保権などの登記に関するもの

②会社、法人の登記に関するもの

③裁判所へ提出する訴訟書類の作成などに関するもの

▽相談電話番号 24-0187 (秋田県司法書士会)

高年齢者を対象に

木材工芸講習を実施

県総合職業訓練センターでは、高年齢者を対象に木材工芸講習を無料で行います。

▽期間 昭和六十一年十二月九日～昭和六十二年二月二十七日

▽実施日 毎週、月曜日から金曜日までの五日間

▽場所 秋田県総合職業訓練センター

▽対象者 おおむね五十五歳以上の男女

▽定員 二十名

▽募集期間 十二月八日(月)まで(午前十時から午後三時まで)

▽申し込み・問い合わせ先

秋田市向浜 秋田県総合職業訓練センター(☎24-2548)

県立宮城大学校

入校生を募集

県立宮城大学校では、昭和六十二年度の入校生を募集します。

▽募集人員 畑作園芸部門、果樹部門、畜産部門各六十人

▽修業年限 二年

▽受験資格 農業に従事し高校卒業以上の学力を有する

と認められる十八歳以上の者

▽問い合わせ先 県立宮城大学校(合川町 ☎0186-7813244)

秋田民謡唄い納め

整理券はNHKで

NHKでは、十二月二十五日、午後六時から、県民会館でテレビ番組「六十二年・秋田民謡唄い納め」公開録画を行います。この番組は、十二月二十五日午後八時から午後八時五十分まで総合テレビで放送される予定です。

この公開番組をご覧になるには、入場整理券が必要です。入場整理券は、NHKの受付で十二月三日から配ります。

なお、郵送希望の方は、次のところまで申し込んでください。

〒010 秋田市山王一

一 NHK秋田放送局「民謡唄い納め」係(☎23-5411)

千代田区との都市交流

神田旭町と友好の「きずな」

秋田杉を植、え記念碑建立

町では、東京都の千代田区と姉妹都市提携を前提とした都市交流を進めており、十一月二十二日午前九時半、加賀谷町長、小熊町議会議長、沢田石町議会議長、松橋福蔵氏、工藤総務部長が千代田区役所を訪れ、加藤千代田区長、稲垣千代田区議会議長、水野同副議長と、その促進について懇談しました。その後、当日午後、予定されていた秋田杉献木と記念碑建立の式や、神田旭町と本町の交流懇親会の準備に当たっている丸木旭町会長、佐貫同副会長、丸山神田西口本通振興会長の、さらには本町杉沢小学校と交流している神田小学校、秋田藩江戸屋敷跡を後世に伝えようと、碑を建立した株式会社東光商會社長・金杉寅雄氏をお礼のため訪問しました。

また、当日午後三時から神田旭町内の佐竹稲荷神社境内で行われた秋田杉献木と記念碑建立の式には、本町から加賀谷森林組合長、小玉同参事、旭町側からは丸木会長、佐貫副会長、丸山神田西口本通振興会長ほか旭町会員、同振興会会員が多数列席。石井神田税務署長（本県出身）も出席し、お祝いの言葉を述べてくれました。

境内に植えられた秋田杉は、贈ったのは町の森林組合。五年生。記念碑は男鹿石でできており、一辺が十五センチ、高さ一・三メートルの角柱で、以前、町内に住む金杉寅雄さん



建立された記念石碑のそばに秋田杉を植える加賀谷森林組合長と丸木旭町会長

んが、ビルを建設したとき、地中から佐竹家の日の丸扇紋の金箔、銀箔などが発掘されています。その屋敷の鬼門よけのため寛永十二年稲荷明神を勧請して建立したというのが佐竹稲荷神社で、何回か焼失し、現在の神社は昭和二十年代に再建したもの。神社の社紋は佐竹家の家紋と同じ扇に日の丸。町会の旗には扇に日の丸の社紋を配するなど、神田旭町の皆さんは、自分たちの住んでいる所がその昔、秋田藩主の江戸上屋敷であったことを誇りにしており、この神社を大

事に守り続けています。それだけに、神田旭町の皆さんは、歴史的なゆかりがある秋田の本町と友好の「きずな」ができたことを、大変喜んでいました。また、神社がある神田西口本通振興会では、一週間も前から各商店の前に、五月の祭典で使っている「鎮守佐竹稲荷神社大祭」と染め抜いたのぼりを立て、横断幕やちょうちんをつるして、本町からの一行を歓迎してくれました。献木と碑建立の式の後、午後四時から同町内の飲食店「越中」で、神田旭町と本町との交流懇親会が開かれました。この懇親会には、旭町会員、神田西口本通振興会会員、神田小学校長、同校教頭など七十五人が出席。また、稲垣千代田区議会議長、村瀬区議会議員が、伊豆大島の三原山噴



交流懇親会場で旭町会へ感謝状を贈呈する加賀谷町長

火による罹災者受入対策で忙しい中を、お祝いにかけてくれました。懇親会では、今日を契機に両町が末長く交流を続けることを確認し合い、盛会のうちに午後六時半閉会しました。佐竹稲荷神社境内に建立された記念碑には次のように刻まれています。五城目町は、佐竹藩の藩所である「国の宝は山なり、然れども伐り尽くすときは用に立たず、尽きざる以前に備えを立つべし。山の衰えは即ち国の衰えなり」を理念に積極的に造林と保育活動が続けた結果、県内で良質秋田杉の生産拠点的地位の確立をみるに至った。ここに町の本である秋田杉を、ゆかりあるこの地に植栽奉納して永く神田のいやさかを願うものである。

お歳暮に秋田米を!

アキタコマチ・ササニシキ・キヨニシキ
全国どこでも直送いたします。



米と灯油とプロパンガスの店

永猿田商店

五城目町中川原68-1 TEL 52-2465

年賀状の印刷は

- お年玉付年賀はがき立替します
- ご注文の方にもれなく粗品進呈
- 多少にかかわらず御用命下さい

五城目町古川町

湖東印刷所へ



TEL 52-2430

町内の話題

ゲートボール場に招待

鯉倶楽部が無料で

老人ホーム森山荘のゲートボール愛好会(十七人)の皆さんが、十一月十三日、鯉倶楽部(代表・石井勝博さん)の屋内ゲートボール場に招待されました。

これは、同ゲートボール場の落成一周年を記念して、鯉倶楽部が無料で行ったもの。お年寄りたちは、広い屋内ゲートボール場をいっぱいに使ってプレーを楽しんでいました。

鯉倶楽部では当日、ホームのお年寄りたちに、ルールや基本プレーを正しく理解してもらうため、五城目町ゲートボール協会から会長の加藤幸次郎さんなど三人を指導者として招きました。このほか昼

食や入浴、マイクロボスでの送迎なども手配されており、ホームのお年寄りたちは、いたれりつくせりの招待に大変喜んでいました。

町の名所をカクテルに

金子さんが考案

町内の名所をイメージしたカクテルを、このほど金子光吉さん(紀久栄町)が考案。金子さんは、町内の飲食店の皆さんに協力をお願いし、町の名物にしたいとはりきっています。

考案したカクテルは五種類で、「森山」や「五城目城」などの名前がつけられています。そしてカクテルのベースは、町内に二軒ある造り酒屋の地酒で、六十ミリリットルのカクテルの中に、半分の三〇ミリリットル使われており、中

身も名前も「五城目町」をアピールしています。

でき上がりの色は、「森山」がグリーン、「馬場目川」がブルー、「五城目城」がホワイト、「市日」がブラウン、「雀館」がピンク、レモンやペパーミント、カカオなどの香りと味がほどよくミックスされ、さわやかな飲み口です。

気になるカクテル中のアルコールは、一番高い「五城目城」で約三三パーセント、一番低い「森山」が約二二パーセントとなっています。一杯の価格は五百円。

町内で飲食店を経営する金子さんは「現在、各地で地域興しが叫ばれており、私にも何かできることがないか考えた。このカクテルを思い浮かべた。町の観光や、地酒の消費拡大に役立ってくれば、うれしいです」と話していました。

伝言板

社交ダンスパーティー

▽日時 十二月十三日(土)
午後六時半
▽会場 町民センター(四階)

年賀状印刷の講習会

だれにでも簡単にできる孔版印刷の講習会を開きます。

▽主催 五城目町社交ダンス愛好会、五城目ローターアクトクラブ
▽参加料 前売千三百円、当日千五百円
▽問い合わせ先 小森博行 52-2210
高津 智 52-2262

▽主催 内川青年会、秋田孔版学会
▽受講料 テキスト代三百円
▽申し込み・問い合わせ先 沢田石清樹(湯ノ又) 54-2535

水道料金の集金日と集金員

町内名	集金日	集金員	町内名	集金日	集金員
大川一区、二区、三区、四区	7日8日	雀館 工藤 三郎 52-3483	岡本一区、二区	23日24日	岡本 小玉則子 52-4472
下樋口、曙町、石崎、四ツ屋	9日		樋口、中川原	10日	米沢町 原田 京子 52-3761
西野、谷地中	10日		東磯ノ目町、館町	14日	
希望ヶ丘、広ヶ野、新里町	16日		小池町、川原町	16日	
田町	17日		古川町	18日	
上田町、今町	18日		紀久栄町、長町	19日	
昭辰町、雀館	20日21日		一番町、新町	22日	
矢場崎、西磯ノ目町	14日	築地町 鎌田アイ子 52-3055	仲町	24日	雀館 千葉 善蔵 52-2139
御蔵町	17日		高崎	13日	
米沢町	18日		久保、館越	14日	
築地町	19日		上樋口、岩城町	18日	
新畑町	21日22日		富田	23日	
畑町	23日24日		下山内、上山内	26日	

水道料金

集金日と集金員が

変わりました

水道料金の集金日と集金員が、一部変更になりました。十二月一日から、一般家庭用水道メーターの検針が始まります。メーターが、木の葉

や土に埋まったり、荷物の下になったりしている場合があります。検針しやすいように荷物をかたづけするなど、ご協力をお願いします。

住宅設備

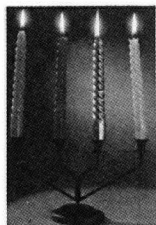
なんでも相談所

- 電気工事
- 火災報知設備
- 浄化槽工事
- ボイラー冷暖房工事
- 水道工事

富士電設(株)

五城目営業所 (電話) 52-3539代
秋田支店 (電話) 62-2919代

メリークリスマス!



ジングルベルが街にあふれ、テーブルのまわりに笑顔が集まる今宵。キャンドルに火をともしながら楽しいパーティが始まって――。

今年もクリスマスケーキのお求めはお菓子のしばたから――。

お菓子のしばた
五城目町古川町 電話52-3238

Liquor & Foods



ワインからおトーフまで

CVS あらかわ

五城目町神明前

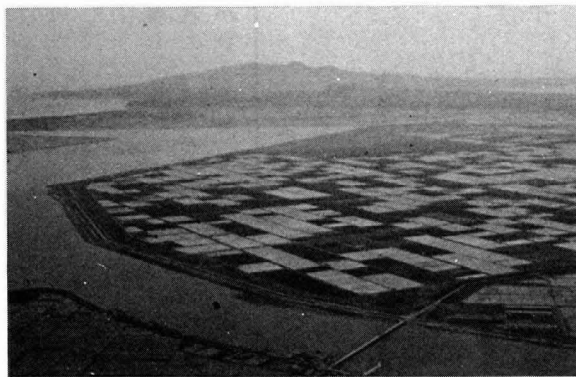
T 52-3903

大河兼任のなぞ

17

大社山の合戦

小野 一二



空から男鹿の真山・本山を望む

由利中八維平は律義な男であつた。大河兼任の軍勢とまともに戦つた。橘公業は、御家人となるまえは京都の貴族につかえていたという、もともとは上方武士だったから、機をみるに敏であつた。さつさと逃げだしてしまつた。維平は大社山に陣をしいたが、急ぎ救援にかけつたためもあつて兵力は少なかつた。自分の掌の平を指すように、男鹿島の地理にくわしい兼任軍の敵ではなかつた。

維平が兼任に敗れた大社山は、吾妻鏡文治六年正月六日条には「小鹿嶋大社山毛々左田之辺」と記されて

いる。しかし現在男鹿半島に大社山の地名はない。またこの地がどこを指しているかにも諸説がある。「大社」は大社・小社などの神社の社格ではなく、この地方の最も尊崇をあつめている神威さかんな神社という意味であろう。とすれば、漢の武帝伝説の赤神社を指しているものと考えられる。

『出羽国風土略記』の秋田郡の部に赤神社のことがあつた。それでは「男鹿の内」にあり「東鑑（吾妻鏡）」に小鹿嶋大社とあるは当社の事か」という。そして「大社」とするのは誤りとして、前述したように大

社は土地の人びとが實際呼んだものである。このようにみえてみると、大社山は真山・本山ということになる。維平はこの山のふもとに展開して、腋（脇）本から進んできた兼任を迎え撃つた。敗れた維平は海上に逃れ、再上陸して追尾してきた兼任と戦つたのが毛々左田である。この地は、現秋田市新屋の辺りだとされている。維平はここで討たれる。ついで少し前まで、ともに平泉藤原氏の郎徒だったふたりは、たがいに敵となつて戦い、討ち討たれるのである。

男鹿島と秋田市周辺で勝利した兼任は、勢いにのつて千福・山本（現在の仙北郡方面）に向かつた。兼任軍は土着の勢力が合流して、一万騎を超える大軍になつていたので、向かうところ敵なしという状況だった。さらに転じて津軽地方に進出した兼任は、奥州征伐のとき北陸軍の総大将であつた宇佐美平次を討ち取り、地頭の御家人たちも討ち取つて大勝した。

いかに兼任が土着勢力に支持され、その兵力が強力なものになつていったかが、連戦連勝の記録からうかがい知られる。

年末も「ごみ」の収集を行います

今年（12月29日～31日）も、ごみの収集を行います。ルールを守って各町内の集積場所に、ごみを出すようお願いいたします。なお、新年の1月1日から4日までは、ごみの収集を行いません。

「もえるごみ」

新里町、広ヶ野、希望ヶ丘、田町、上田町、今町、御蔵町、小池町、川原町、新一番町、古川町、紀久栄町、館町、中川原樋口、岩城町	29日（月）
築地町、畑町、新畑町、東磯ノ目町、西磯ノ目町、矢場崎、仲町、長町、米沢町、雀館、昭辰町、大川（1区～4区）	30日（火）
大川（1区～4区以外の地区）、馬川地区、馬場目地区、森山地区、富津内地区、内川地区	31日（水）

お誕生 おめでとう ございます

（敬称略）



坂谷卓磨 長男	10月3日
伊藤慎吾 長男	10月4日
敏・敦子 二男	10月5日
幸男・祐子 長女	10月8日
小玉真梨子 長女	10月9日
陸男・郁子 三男	10月10日
金澤好浩 三男	10月10日
弘八・町子 二男	10月10日
伊藤千央 二男	10月10日
和憲・洋子 二男	10月10日

おめでとう 申し上げます

（敬称略）

金野英美子 長女	10月12日
一ノ関晴子 二女	10月12日
喜隆・よし子 長女	10月14日
猿田亜希子 長女	10月14日
誠一・淳子 長男	10月18日
北島澄人 長男	10月18日
加藤歩美 長女	10月19日
春幸・久子 長女	10月19日
門間武蔵 長男	10月22日
良雄・田鶴子 長男	10月22日
中川原	10月22日

町の人口と世帯

11月1日現在

人口	15,395人	(-1)
(男)	7,343人	(0)
(女)	8,052人	(-1)
世帯	3,938人	(0)

※ ()内は前月との比較

鳥井リノ	85歳	10月12日
館町		10月12日
下樋口		10月12日
伊藤千ナ	75歳	10月22日
町村		10月22日
畑澤多郎右エ門	83歳	10月27日
湯ノ又四区		10月27日
小玉貞一	76歳	10月28日
中村		10月28日
草皆勇太郎	77歳	10月28日
帝釈寺		10月28日
高千		10月29日
中村		10月29日
佐藤キエ	85歳	10月30日



善意銀行
預託者

（敬称略）

・九月二十七日
二万円 下山内 永井久雄
（亡娘サツ様の香典返しと
して）